

国立公園における協働型管理運営に関する検討・取組の経緯

平成14年1月 中央環境審議会「自然公園のあり方に関する中間答申」
平成14～17年 自然公園あり方懇談会
平成18 国立・国定公園の指定及び管理運営に関する検討会

平成19年3月 「国立・国定公園の指定及び管理運営に関する提言」

＜国立公園の管理運営に関する提言＞ ～ 地域性国立公園の管理運営のあり方 ～

- 多様な主体によって協働した管理運営をおこなうため、公園の提供するサービスの明確化、共通の目標(ビジョン)、目標達成のための行動計画の策定が必要
- 国立公園が地域にとって重要な存在となるよう、地域振興にも配慮した適切な利用を推進
- 地域における管理運営の担い手の育成推進

平成19～21年度 広範な関係者の参加による魅力的な国立公園づくり推進事業

広範な関係者の参加による国立公園の管理運営の在り方検討（平成19年度）

- 「広範な関係者の参加による国立公園の管理運営に関する懇談会」設置
- 管理運営に関する計画体制の枠組みや順応的な管理運営サイクルの検討
- 提言項目に関する国内外の事例集
- 管理委託制度の導入検討

ヒアリング
課題整理

参加型の国立公園管理運営体制モデル事業

●・・・平成19年度当初のモデル地域

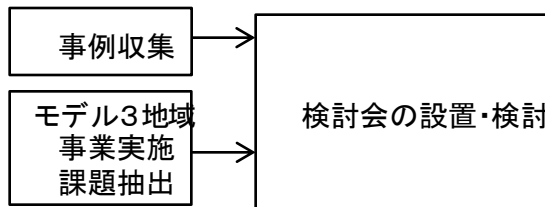
- 尾瀬国立公園（尾瀬国立公園協議会）H19～H21
- 白山国立公園（環白山保護利用管理協会）H19～21
- 上信越高原国立公園）H20～21
（万座地域における管理計画策定）
- 西表石垣国立公園 H19～21
（石垣北部地域の自然観光資源の有効活用）
- 霧島屋久国立公園 H20～H21
（錦江湾地域戦略的運営プログラムの策定）
- 大雪国立公園（登山道等の維持管理体制）H21
- 日光国立公園 H21
（那須地域における自然体験プログラムの実施）

平成22年度～ 国立公園等における協働型管理運営推進事業

全国の国立公園において協働型管理運営体制の構築を実施

平成22年度 3地域
平成23年度 10地域

国立・国定公園における協働型管理運営体制のあり方を検討



協働型管理運営体制のあり方に関する提言

地域住民を含めた民間の方々の公園管理への参画

↓
自然公園管理団体の支援

広範な関係者の参画による魅力的な国立公園づくり推進事業 (平成19年度～21年度)

(1) 上信越高原国立公園 万座・浅間・菅平地域 (平成19～20年度)

平成19年度から2年かけ、地域の関係者と協働で万座、浅間、菅平地区ごとに公園管理における将来目標案、行動計画案、「国立公園の目指すべき風景」を検討。平成20年度には、管理計画検討委員会を設置し、検討結果を反映した当該地域の管理計画書案を策定。管理計画検討会から常設の協議会への移行などは行われなかった。

(2) 白山国立公園 (平成19～21年度)

平成19年1月に設立された環白山保護利用管理協会(以下、「環白山協会」という。)が国立公園の管理を担える体制となることと目指し、平成19年度は、白山国立公園が提供するサービスの整理・分析、協働による管理運営のための課題整理等を現状の把握を実施。

平成20・21年度は、環白山協会が一元的組織として担うべき機能・役割の明確化、白山国立公園の基本理念や全体方針の検討等を行った。また白山国立公園を5地域に分け、関係者が課題を共有しつつ、連携してこれを解決する地域ごとの連絡会をおき、協働型管理運営体制を構築した。

現在は、環白山協会の機能、組織を充実させるため、公園管理の中核を担う協働組織として環境省が体制を整える支援を続け、活動が展開されている。

(3) 尾瀬国立公園 (平成19～21年度)

平成19年度に「尾瀬国立公園協議会」(事務局:環境省)を設置し、「尾瀬ビジョン」(平成18年度策定)の推進・実現を図るため、ビジョンに整理された諸対策の進捗状況の把握、未だ取り組みがされていない課題の取組方針の策定等を実施。

また、協議会の下に個別課題を検討する小委員会「快適利用の促進(利用分散等)に関する小委員会」及び「生態系モニタリングに関する小委員会の設置」を設置し、具体的取組について検討を開始した。

現在は、年1～2回の協議会、年に数回の小委員会を開催している。

(4) 西表石垣国立公園石垣島地域 (平成19～21年度)

新たに国立公園に編入した石垣島北部地域を対象に、座談会の開催や地域住民との先進地調査等の実施をとおし、地域との協働のもと、総合的な保護と利用のあり方について検討した。また、島外から旅行会社の企画担当者を招聘し、石垣島北部のモニターツアーを企画、実施。これらの結果についてはニュースレターを発行の上、地域に報告を行っている。

平成22年度からは、「国立公園等における協働型管理運営体制構築事業」において事業を継続。平成23年度にはこれまでの検討の中で提案された利用ルールや管理運営体制のあり方をもとに、地元住民への提言をとりまとめる予定。

(5) 霧島屋久国立公園錦江湾地域 (平成20～21年度)

平成23年3月の九州新幹線鹿児島ルート全線開通による利用動態の変化や、近年の歴史文化的資源への関心の高まり等の当該地域をとりまく社会経済的な背景を勘案しながら、平成23年度に予定されている錦江湾地域の公園計画の点検に備え、利用者及び地域のニーズを把握した錦江湾地域の国立公園の果たすべき役割を検討することにより、国、地方公共団体、地元住民、民間企業、学識者等の多様な主体の参画を得て、魅力ある国立公園づくりを実現することを目的として、霧島屋久国立公園錦江湾地域戦略的運営プログラムを策定。

策定に際しては、地域の資源調査、利用者及び地域のニーズの把握、霧島屋久国立公園錦江湾地域戦略的運営プログラム検討懇談会開催した。

現在、本プログラムでの結果等を踏まえ、平成23年度に霧島屋久国立公園の錦江湾地域の拡張等を進めているところ。

(6) 日光国立公園那須地域 (平成21年度)

「那須平成の森」の関連で「こどもエコキャンプ」、及びボランティア活動プログラムを実施。現在はその結果を下に、「那須平成の森」においてミニガイドやガイドウォークを実施している。

(7) 大雪山国立公園表大雪地域 (平成21年度～)

大雪山国立公園の登山道の維持管理を関係者の協働で行うための仕組みづくりのため、大雪山国立公園全域の登山道を対象として、登山道の現況・管理水準の整理、課題の抽出、仕組みづくりの検討方法の提案を行った。

平成22年度以降は、「国立公園等における協働型管理運営体制構築事業」において事業を実施。平成22年度は東大雪地域を対象として、登山道の維持管理体制のあり方をワークショップなどにより検討し、今後の維持管理体制の基本的な考え方をとりまとめた。

今後も継続実施としており、大雪山全域の実効性のある管理運営体制の在り方、その構築・運用の計画をとりまとめていく予定。